



こんにちは

村田けい子です

2017
4.28
No100

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

議会の新体制決まる！ 4.26臨時議会で

議長 西藤 努
／副議長 田中 三江
議会運営委員長 土屋春江
／副 村松浩喜
監査委員 瀧澤 壽美雄

総務経済常任委員会
◎森本 信明 ○今井 清
瀧澤 壽美雄 土屋 春江
森澤 文王 今井 英昭

社会文教建設常任委員会
◎榎本 真弓 ○両角 正芳
西藤 努 田中 三江
村松 浩喜 村田 桂子

議会だより編集委員会
◎森澤 文王 ○今井 英昭
田中 三江 両角 正芳
村田 桂子 今井 清

◎委員長○副委員長

・村田はまた、川西保健衛生施設組合議会の議員になりました。川西日赤病院の運営やゴミ問題にもかかわることとなります。

議長を始め役員人事を決める際には、さまざまなドラマがあります。議長・副議長選の折には、それぞれ立候補の表明があり、議会を「こうしたい」という思いや抱負を述べる機会を設けてあることは、大変大切なことだと思います。

また候補者と様々語り合う中で、意思疎通や議会の在り方について議論が交わされることが大切です。町民の切実な要求や声に耳を傾け、町政に活かす議会として、さらに情報公開や深い議論などが保障され、政策提案のできる議会となるよう、私も力を尽くしたいと思います。

皆様のご意見をお聞かせください。



全員当選果たせました。

佐久市議選 3名
佐久穂町議選 3名
小海町議選 2名



シカの群れとの遭遇

西塩沢から藤沢への道すがら、こちらを見ているたくさんの目。まだ日が高く明るいのに、大群で姿を現したシカ。「えっ何！」とすぐ車を止めカメラを取り出す。その様子に向こうもじっと見ている。数えるとなんと11頭もの群れだ。こんなにたくさんのシカに遭遇したのは初めてですが、これから育苗期だというのに、真昼間から堂々と出て来るなんて、シカ除けの柵もあまり効かないのでしょうか。



タケノコの季節がやってきました。

今週のパチリ

我が家に戻ると立派なタケノコが台所のテーブルに。大きいのは太さ直径15cmにもなる。ご近所の方が届けてくださったとのこと。県外の御親戚から届いてそのお裾分け。

我が家のタケノコは真竹。もっと細かいし採れる6月中旬のはるか向こう。ありがたいことです。

早速とぎ汁でアク抜きをしました。明日は煮つけていただきます。ご近所最高！

4.22 佐久地域のアースデイに参加。共謀罪反対署名を訴える。9条を守るたてしなの会として参加



地球温暖化など地球について考え、自分でできることから始めようという様々な団体が集まって開くイベントが行われ9条を守る立科の会も「戦争は最大の環境破壊」として参加し、軽トラパレードの写真、森獏郎さんの板画のはがき販売、そして共謀罪についての面白クイズと署名を行いました。「『検定』に参加するとキャンディを差し上げます」の言葉に、一時は人だかりが(左の写真)楽しく一日アピールしました。



ステージの様子
「幸せの種をまこう〜」

薪ストーブや手作りの食器、電気を使わない暮らしの提案、モンゴルの移動式の家、パオ。お肉を食べる日を減らそうというキャンペーン。食用動物の残酷な飼育方法のパネル。などたくさんの勉強になりました。

4.23 介護医療連携記念講演会in すずらん

理学療法士さんの指導で簡単体操訪問リハビリは、地域に出向いて筋力や機能の低下を防止するための運動を手助けするということ。



訪問看護師のお話、地域で支える在宅介護における看護師さんの役割は重要です。この度スズランでは訪問看護も行うことになったそうで、心強いですね。医療と介護の連携ができるようになったとのこと。多くの参加者でお話を伺い、また実際にリハビリ体操を体験しました。

★五無齋研究会の「信濃公論に学ぶ」学習会に参加。

来年が生誕150周年の五無齋先生。社会に対してモノを言った、先生発行の新聞「信濃公論」の学習会に参加しました。(97号まで発刊の週刊紙)時代のはるか先を見越した提言は今読んでも新鮮で面白かったです。

植物・動物・鉱物岩石などの標本を集め、実物を見て教育に活かすことを提唱して、あらかじめ宣伝して予約しお金を集めようとしたことや、生徒の数だけ虫眼鏡を備えるよう、提案するなど、なかなか興味深いことが描かれています。現代語訳があれば、その内容を理解することも容易ですが、その格調高い、また、皮肉やユーモアが込められた文体は、やはり原文のまま、まず読んでみるのが面白いと思います。

同日同じ時間に開催された講演会に参加した後、こちらに来たので、十分な学習時間がないことが残念でしたが、じっくりと読んでみたくなる“公論”でした。

